

報道関係者各位

2025 年 7 月 10 日

株式会社東陽テクニカ

ものづくりを支える要素技術の総合展示会

「TECHNO-FRONTIER 2026」に出展

～ モータ評価と EMC の最先端ソリューションで、次世代ものづくりを支援 ～

株式会社東陽テクニカ(本社：東京都中央区、代表取締役 社長執行役員：高野 俊也^{こうの としや})は、7 月 15 日(水)からの 3 日間、東京ビッグサイトで開催される「TECHNO-FRONTIER 2026(テクノフロンティア 2026)」に出展いたします。

「テクノフロンティア」は、モータ技術を核として「思い通りに産業機器を動かすアクチュエーション・パワーエレクトロニクス、見えないノイズ・熱を制御する要素技術」と、「データをシェアして、工場を最適化するものづくり DX と匠の技術を擦り合わせる生産技術」の総合展示会です。

東陽テクニカは今回、同展示会の構成展である「第 44 回モータ技術展」と「第 39 回 EMC・ノイズ対策技術展」に出展し、開発・設計現場の高度化・効率化に貢献する最新の計測・評価ソリューションを紹介します。



【 出展概要 】

- 展 示 会 名：TECHNO-FRONTIER 2026
- 会 期：2026 年 7 月 15 日(水)～17 日(金)
- 時 間：9:30～17:00
- 場 所：東京ビッグサイト 西1～3 ホール
- ブ ー ス 番 号：①「第 44 回モータ技術展」(2-R34)、②「EMC・ノイズ対策技術展」(3-H08)
- 展示会公式サイト：<https://tf.jma.or.jp/>

①「第 44 回モータ技術展」(ブース番号：2-R34)

電動化の進展により高度化するモータ評価のニーズに対応し、評価精度の向上と開発効率化を実現するソリューションをご紹介します。開発現場における測定精度向上と試験効率の最適化を支援します。

▶ブースの見どころ

- ・モータ特性評価・効率測定を包括的に行う評価システム
- ・インバータや電装品開発に対応するシミュレーション電源・模擬装置
- ・トルクセンサ、ダイナモメータなど各種計測機器
- ・オリジナル開発による統合モータ評価ソリューション



【主な展示製品】

●オールインワン負荷モータトルク試験ベンチ「TSB DRIVE シリーズ」

負荷モータの制御と計測機能を 1 つのソフトウェアに統合したモータトルク試験ベンチシステムです。力行／回生※の 4 象限でのモータ T-N 特性(トルク-回転数特性)評価、モータ効率測定、温度上昇試験、誘起電圧測定など、総合的なモータ試験が可能です。負荷装置には低慣性・高速応答の負荷モータを採用し、1 回転中の負荷変動試験にも対応。モータトルク計測に必要な機器一式をフルセット化しており、導入後すぐにモータ性能試験を開始できます。

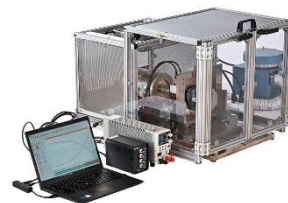
※力行：モータで車両を駆動する運転、回生：モータで発電しエネルギーを回収する運転



オールインワン負荷モータトルク
試験ベンチ「TSB DRIVE シリーズ」

●オールインワンモータトルク試験ベンチ「TSB シリーズ」

モータ性能評価に必要なトルク計、負荷ブレーキ、負荷制御／計測ソフトウェア、ベンチ治具一式を標準搭載した、オールインワン型モータトルク試験ベンチシステムです。「TSB シリーズ」としてラインアップを展開し、T-N 特性、T-I 特性(トルク-電流特性)、モータ効率評価など幅広い計測に対応し、モータ開発初期の評価から出荷検査まで多用途で活用できます。



オールインワンモータトルク試験ベンチ
「TSB シリーズ」

●伝導イミュニティ試験用リップルジェネレータ「RippleNX」

リップレイミュニティテストが可能なハイパワーリップルジェネレータです。

200Hz～300kHz のリップル信号を重畳し、最大 1,000V/1,000A DC に対応します。車載電装品(高電圧バッテリー、DC-DC コンバータ、車載充電器)などの高電圧製品のテストに活用できます。



伝導イミュニティ試験用
リップルジェネレータ「RippleNX」

②「第 39 回 EMC・ノイズ対策技術展」(ブース番号：3-H08)

電子機器の高度化・高密度化に伴い、複雑化するノイズ環境に対し、「次世代製品開発を加速する EMC イノベーション」をテーマに、多彩な EMC ソリューションを提案します。正確かつ迅速な測定と、設計段階からの EMC 対策により、開発における手戻りを削減し、開発コストの低減と開発期間の短縮に貢献します。

▶ブースの見どころ

- ・最新 EMI レシーバーと測定ソフトウェアによる次世代測定環境
- ・EMC 試験設備の構築・運用支援
- ・コンサルティングを含むワンストップサービス



【 主な展示製品 】

●最新エミッション計測ソリューション

キーサイト・テクノロジー社製の最新の EMI レシーバー「PXE」と、東陽テクニカ製エミッション計測評価ソフトウェア「EPX」を組み合わせた計測ソリューションです。「PXE」は、一度に測定可能な周波数範囲が 1GHz と業界最大級で、この帯域を常時観測する「ギャップレス測定」により複雑なノイズも見逃しません。この EMI レシーバーの機能とソフトウェアに搭載された特許技術により、試験エンジニアのレベルに関わらず、再現性の高い測定と規格適合試験やノイズ解析を正確かつ簡便に実施できます。手戻りを削減し、製品開発サイクルの短縮化に寄与します。



エミッション計測評価ソフトウェア「EPX」(左)
EMI レシーバー「PXE」(右)

●EMI 対策アシストソフトウェア「EMINT」

「EMINT」は過去の EMI 測定データの中から効果的な対策方法を見つけ出し、開発者が“今”直面している EMI 対策の実施をアシストするソフトウェアです。「DX」や「AI」技術を用いてより効率的な EMI 測定や対策業務の実現に貢献します。



EMI 対策アシストソフトウェア
「EMINT」

●EMC 対策支援コンサルティングサービス

EMC 対策を総合的に支援するコンサルティングサービスを提供します。製品の設計段階から、EMC 対策を長年手掛けてきた経験豊かな東陽テクニカのエンジニアが伴走。測定ニーズへの対応や試験システム・機器の相談にも対応し、ワンストップでさまざまな問題を解決するとともに、コスト低減や開発時間の短縮に寄与します。

【 セミナー情報 】

日時：2026 年 7 月 17 日(金)12:10～13:00

場所：出展者セミナー(3) 会場

テーマ：「EMI の発生要因と対策および 1GHz FFT を実現した最新 EMI レシーバーのご紹介」

内容：「半波長ダイポールアンテナ」や「リバブレーション・チャンバー」など、EMC 計測に欠かせないツールは共振現象を利用しています。これらの 2 次元・3 次元の共振現象も、回路共振とのアナロジーを用いることで理解することができます。本セミナーでは、身近な現象を例として、共振の本質的なメカニズムを解説します。また、1GHz の FFT 帯域を実現した EMI レシーバーを中心とした最新の EMI 測定ソリューションについてもポイントをご紹介します。

<株式会社東陽テクニカについて>

東陽テクニカは、最先端の“はかる”技術のリーディングカンパニーとして、技術革新を推進しています。その事業分野は、脱炭素／エネルギー、先進モビリティ、情報通信、EMC、ソフトウェア開発、防衛、情報セキュリティ、ライフサイエンス、量子ソリューションなど多岐にわたり、クリーンエネルギーや自動運転の開発などトレンド分野への最新計測ソリューションの提供や、独自の計測技術を生かした自社製品開発にも注力しています。新規事業投資やM&A による成長戦略のもと国内外事業を拡大し、安全で環境にやさしい社会づくりと産業界の発展に貢献してまいります。

株式会社東陽テクニカ Web サイト：<https://www.toyo.co.jp/>

★ 本件に関するお問い合わせ先 ★

株式会社東陽テクニカ 経営企画部 広報・マーケティンググループ

TEL：03-3279-0771(代表) E-mail：marketing_pr@toyo.co.jp

出展お知らせページ：

<https://www.toyo.co.jp/e-mobility/seminar/detail/tf2026/>

<https://www.toyo.co.jp/emc/seminar/detail/id=46755>

※本ニュースリリースに記載されている内容は、発表日現在の情報です。製品情報、サービス内容、お問い合わせ先など、予告なく変更する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

※記載されている会社名および製品名などは、各社の商標または登録商標です。